

交流・文化施設等整備検討委員会概要

| | | |
|-----------|--|--|
| 1 | 会議名 | 交流・文化施設等整備検討委員会 第5回専門委員会 |
| 2 | 日時 | 平成21年3月10日(火) 午後6時から8時まで |
| 3 | 会場 | 上田駅前ビルパレオ 2階会議室 |
| 4 | 出席者 | 日端委員長、美山副委員長、土本委員、佐田委員、津村委員、関田委員、太田委員、滝澤委員、【欠席委員】伊藤委員 |
| 5 | 市側出席者 | 母袋市長、石黒副市長、大澤政策企画局長、小菅教育次長、中部文化振興課長、宮川政策企画課長、中山公園緑地課長、清水都市計画課長、伊藤交流・文化施設建設準備室長、若林係長、室賀係長、徳田主任 |
| 6 | 運営支援業務受託者 | 室賀建築設計事務所 室賀欣一氏 |
| 7 | 公開・非公開等の別 | 公開・一部公開・非公開 |
| 8 | 傍聴者1人 | 記者2人 |
| 9 | 会議概要作成年月日 | 平成21年3月11日 |
| 協 議 事 項 等 | | |
| 1 | 開会(大澤政策企画局長) | |
| 2 | 市長あいさつ | 各界で第一人者の皆様に活発な議論をいただいております。今まさに大詰めを迎えているとのこと。現在開会中の議会でも、交流・文化施設に関して質問が出され、市の文化芸術のあり方など本質的な議論が交わされている。中間報告後には、公聴会など市民の皆様との議論を深めながら整備計画につなげていきたい。今日は異例とは承知しているが、議論をお聴きする趣旨で出席させていただいた。それから、これまでのJT上田工場跡地という表現は、開発の進捗状況を踏まえ、JT開発地という表現に統一したくご協力をお願いしたい。 |
| 3 | 委員長あいさつ | 中間報告書もまとめの時期となってきている。今日は素案について意見をいただきたいが、内容としては、あまり詳細なものではなく、必要に応じ付録などを用いた形での報告書としたい。 |
| 4 | 議事 | |
| | (1) 中間報告書の素案について | |
| | 事務局:(資料の説明) | |
| | 委員長: 中間報告書の素案について、構成や文章の表現など、ご意見をいただきたい。 | |
| | 副委員長: これまでの議論が適切な言葉で盛り込まれている。P.11ではエリアマネジメントに触れているが、市の将来展望を踏まえた文化施設のあり方を捉えるために、この考え方が明確にされていることは非常に良い。文化施設は街の中では、「点」として捉えられることが多いが、「点と点」または「面」に近づける発想が必要。それから、P.4に「芸術系大学等の活動拠点」という表現があるが、芸術系大学は学生の年間納付金負担が大きく、学校経営的にも負担増大による学生数の減少は大きな問題。開館後に「芸術大学の拠点の話はどうなったか」と追求されることも想定されるが、既に何か具体的なアイデアはあるか。 | |
| | 事務局: 市では、これまでも芸術系大学がホールを利用し、市民に向けて発表・交流するという歩みがある。本施設でも同様に有効活用できればと考えている。 | |
| | 委員: 学生に作品発表の機会を提供し、また鑑賞に来た小中高生らとの交流を図りつつ、芸術への関心も高められる。上田には無言館があるが、戦没画学生の作品に影響を受けた芸術系の学生が多いことを考えれば、この地で作品を発表する意味は大 | |

きい。私達が生きる意味、亡くなった人達の意志を受け継ぐという、目には見えない部分での交流を期待する。

委員：以前に美術館の改築計画を検討しながらも白紙化された経験から言えば、P.3の「文化創造（鑑賞・創作）」は文化施設の検討としてはあまりにも当然のことで、市民の皆さんには拒絶反応が生じる可能性がある。この施設が特色のある、いわゆる「箱物」とは異なる事を訴えるためには、P.4の「都市創造（交流・育成）」との順番を入れ替え、「交流」や「育成」こそが、本施設を貫く新しいコンセプトであるということを強く打ち出す必要がある。なお、P.5では「新上田市、東信濃地域のシンボル」という表現があるが、シンボルだから立派なものを作る、という論理ではなく、「新たな交流～」や「市民誰もが等しく～」を始めに打ち出すことで理解が得られる。

委員長：「文化」はやや形而上的、「都市」は物理的なイメージがあり、順番としては文化が先で良いのではないか。「文化創造」と「都市創造」は別のものではなくお互いに絡み合うのだが、「側面」という言葉で分けるとP.2の図のようになる。ここは少し文章的に補強すれば良いのではないか。確かに「鑑賞」や「創作」は当然の事とも言えるが、その言葉に盛り込む中身こそが重要。

委員：委員長の意見に賛成。「鑑賞」や「創作」こそが、市民の皆さんが文化施設を訪れる最大の理由。事業展開について、あまりにも明確に書いているため、開館後の運営や実現可能性に不安が残る。例えば「交流」の部分でコンベンションの誘致が上位に挙げられている点。これが非常に重要な事は十分承知しているが、施設・事業・人材など、全ての面で音楽や美術と異なるため、小規模なら可能かもしれないが、運営者にとっては負担が大きい。芸術系大学の件も同様で、「活動の拠点」とまで書いてしまうと難しい。「活動の支援」程度とすべき。またこれによって「経済効果等への影響を広げる」とあるが、ここは経済というよりも、知的財産がどのように残されるかということ。中間報告として概ねの方向性には大きな異論はないが、過大に書いていることで弱みを握られないようにすべき。

委員：全体としてよくまとまっており、「文化創造」と「都市創造」の件も委員長の意見に賛成。なぜなら今回は文化施設の計画であり、その中の新しい側面として「交流」や「育成」を強調すれば良い。それから、この施設には世界各国の優れた芸術家が訪れることとなり、また上田市には外国人が非常に多いことから、もう少し「国際性」の観点を加えるべき。

委員長：それは素案のどの部分に表現すべきか。

委員：「交流」の部分が良い。市内の工場等にもブラジルやアジアの方が増えてきており、最近では福祉関係でも働いている方がいる。一方で私達市民も海外に出掛けている、そういう中での交流・文化施設であるということ。

委員：先程から議論されている芸術系大学の件について、拠点という表現はやはりオーバー。経済効果という言葉も美術とは直接結びつかないため修正が必要。

委員長：経済効果はむしろコンベンションとつながっている。コンベンションが成功すれば宿泊などの面から、上田のみならず周辺にも効果を与える。

委員：素案は非常によくできているが、子ども達の将来や未来のためには「育成」の部分が最も重要であり、そのために「鑑賞」、「創作」、「交流」がある。

委員長：今の意見はP.1の「はじめに」の部分のことか。

委員：いいえ、P.2～3において、「育成」は、「鑑賞・創作・交流」の3つとは同列ではなく、それらの前に位置づけるべきだということ。

委員長：これらは報告書としての見やすさに配慮し並列に書いているが、実際にはそれぞれが絡み合っている。ただし、今の意見のように「育成」は最大のポイントと言

えるかも知れない。P.2の「基本理念と目標」の中に表現を加えてはどうか。

委員：それが良いと思う。

委員：文化施設の計画である以上は「文化創造」が「都市創造」よりも先かもしれない。ただし、行政としての市民の皆さんへの説明責任という意味では、施設の特徴、つまり「育成」や「交流」のための文化施設だという主張が必要。

委員：先進的な自治体では教育委員会がアーティストを登録し学校に派遣するという仕組みが生まれてきている。本施設がその拠点となれば、優れたアーティストが集まるだけでなく、今の子ども達に最も必要とされる「創造性」を育むことができる。これは全国に先駆けた新しい文化施設となる。それから「文化創造」はやはり「都市創造」よりも前に来るべき。なぜなら「文化創造」が重要でないなら何億円もかけてホールを整備する必要はない。最近アウトリーチ等の活動が目ざされ、そのみで成立している例があるが、それならばホールは不要。ここはもう少し確かな書き方が必要。それぞれが順番に書かれているところが問題。

委員：本来「ホール」とは「人が集い、交流する場所」という意味であり、この前提から考えれば、あえて細分化して説明する必要はない。難しく考えすぎている。

委員長：P.3～4についてはこの順番とし、P.2の「基本理念と目標」の部分に「交流」や「育成」という重要な視点を盛り込み、その説明としてP.3～4につなげていく。配置例を見ると駐車場の面積が大きいが、芝生を埋め込むことや、堤防道路との高低差を利用し2層とするなど、この地区を車ではなく歩いて回遊してもらうような工夫が必要。報告書にもどこかにそうした表現を加える必要がある。

委員：商業施設と文化施設との間に歩道橋があれば人の往来が容易となる。また、P.5には「環境、景観、安全等に配慮した～」とあるが、太陽光発電や人が歩くと発電が起きるような、エコに配慮した建物とすべき。

委員長：環境配慮はこれからの公共施設に必要な条件。素案の配置例は、上田城の眺望や商業施設との賑わい空間の連携など、まだ様々な課題に耐えられる案ではない。開発地中央の通りは非常に大きく、シンボリックな通りになるため、ある程度車の動きを制限し、開発地全体の大きなモールとして考えれば融合した利用が可能。

副委員長：文化施設という非日常的な空間では、例えば入った瞬間に建物の向こうまで見渡せて、その先に桜があるなど、ドラマティックな演出が必要。こうした部分は報告書にも明らかにしておく。上田市は「人にやさしいまち」というモットーがあるが、では「やさしさ」とは何か。これは多様な価値観を認め合うという事。価値観を分かち合うことが「鑑賞」であり、価値観がぶつかって「交流」し、そこから「創作」される。これらは全て「やさしさ」や「教育」につながっており、今日の素案にはこうした理念が行間に反映され、上田市らしい特徴を持っている。しかし、これをどれだけの人に分かるかという難しい面もあるため、教育や福祉という言葉を使いながら、もう少し分かりやすく表現すべき。

委員：ところで施設の外観はどのように考えているか。

委員長：なかなかイメージパースを作成するまでの余裕がないのも事実。

委員：外観は非常に重要。

委員長：そのとおりで、ありきたりなものとなれば雰囲気も何もなくなってしまふ。

委員：最近駅が個性を失い、日本全国どこでも同じような姿になっている。ホールも同じで、たとえそれが非常に機能的であっても、ありふれた形の会館であってはならない。これが上田だ、と言えるような特長があれば記憶に残る。

委員：建築物としての評価が得られれば観光名所となる可能性もあり、全国には前を通っただけで入りたくなるような公共ホールもある。使いやすさも非常に重要であり、維持管理の面では、奇抜なデザインは避けた方が良い。電球の交換だけで数

十万円という例もある。これだけは譲れないというルールの上でいかに面白いものを作るかということ。観客、利用者、アーティスト、搬入スタッフ、仕込みスタッフなど、全ての人々の要望に対応できなければ「搬入口が不便」、「楽屋がまるで牢屋」、「舞台が観にくい」など、本当に様々な意見が出される。現段階ではこれらを全て想定した計画は不可能だが、次のステップとして、ソフトとハードを並行して検討していくことが極めて重要。

委員：美術館については、外観は別としても、展示・維持管理面では単純な構造が良い。展示部分まで建築が自己主張し、作品の魅力を損なっている例もある。それから、交流施設に関して、福祉的な視点が欠けている。子育て中は芸術の鑑賞が困難なため、ホールと美術館で共用できる託児室を設ける。

委員長：JT 開発地には文化施設を含めたひとつの街が生まれるが、建物のデザインはこの街の個性につながる。運営面で負担の大きい建物は困難だが、やはり上田らしい芸術性を備えることも必要。デザインと運営を両立させるには、まつもと市民芸術館のようなコンペ方式が考えられる。

委員：まつもと市民芸術館の場合はコンペでまずデザインを決め、その後に運営面から非常に多くの意見が出された。

委員長：デザインに関して報告書に記載するならば、P.5「施設整備の方向性」の後が良い。P.10「敷地内施設配置（例）」については、各案の違いが明確でなく、景観についての配慮も少ないため、本編ではなく付録として位置づけるべき。景観などにも配慮するためには、エリアマネジメントの考え方が必要。

副委員長：P.7に「喫茶、売店等商業系施設の設置～」とあるが、まず飲食施設については、例えば身障者の方々が作った食品を扱うなど、食育や文化交流の場と考えるべき。また、ミュージアムショップの定義は「美術館における教育を延長し家に持ち帰る」というもの。つまり、どちらも商業施設ではなく教育施設。

委員長：まだまだ意見があると思うが予定の時間が来ているため、他にお気づきの点があれば事務局の方をお願いしたい。

(2) その他

委員長：今後の予定について事務局からお願いしたい。

事務局：3/24 に第 6 回専門委員会を予定していたが、今年度中に中間報告書をいただくという目標を踏まえ、委員長と今後の進め方を再検討したい。

委員長：市長、副市長が参加されているが、今日は議論の視聴のみという位置づけでよろしいですか。

市長：結構です。

5 閉会（日端委員長）

それではこれで終わりにしたい。長時間お疲れ様でした。

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。